

AsiaWave


vol.161
12

Life&Culture

ボネ紀行
ラフマン・愛
パキスタン奥地で鱒を釣る
中園タクヤ
饅頭の国家標準
孫秀萍
バンコク俯瞰
村田広幸
映画『恋の嵐』『手紙』
亜洲奈みづほ
インドネシア
スハルト元大統領死去
中川昌俊

フンザ・カリマバードの少女
(中園タクヤ撮影)

**2**

中国写真館
村田次郎
第3回
石炭鉱の日常
大同、中国

5

特集

新春座談会 (2)

中国北方に
時代の風が
吹く

唐亜明

孫秀萍

麻生晴一郎

亜洲奈みづほ

パキスタン北西部に位置するフンザ。かつては、フンザ藩王国として藩王が900年あまり支配する辺境の地であった。その王都カリマバードは、今では中国カシユガルへと向かうカラコルム・ハイウェイ沿いに、ホテルやゲストハウス、土産物店が立ち並ぶ観光地だ。その雄大な山々と美しい村落の風景は、幾多の旅人を魅了してきた。特に春、杏の花でピンクに埋め尽くされることから、桃源郷とも呼ばれている。特に日本人旅行者の間では、映画「風の谷のナウシカ」のモデルとなった土地だと噂され、人気が高い。

この美しい風景を隅々まで味わうがごとく、じつくりのんびり小道を散策していると、上から「ハロー」と声がした。見上げると石垣にかかる梯子の上にその声の主がいた。好奇心でキラキラ輝く目を見せながら質問攻めする、その無垢で屈託無い笑顔に心が和んだ。

その後パキстанは、テロや政情不安による治安悪化や大地震など暗いニュースが続いている。あれから9年。この少女も大人になったことだろう。もしかしたら、もう母親になっているかもしれない。今でもその輝かしい笑顔が失われていないことを祈っている。

(中園タクヤ)

村田次郎の 中国写真館

第三回 石炭鉦の日常 大同、中国



北京より西へおよそ300キロ。山西省、乾いた黄土高原の広がるこの地域に、良質の石炭の採掘できる中国一の産炭地を誇る街、大同がある。およそ1500年前に造られた40もの石窟寺院からなる世界遺産の雲崗石窟のある街としても有名だ。市の経済の6割ほどが石炭関連をしめる、この街の人々の生活は長い間、変動する石炭の価格と時代の波に左右されてきたといっても過言ではない。





一昔前は、エネルギーの中心は石炭という時代もあった、そして石炭から石油、天然ガスなどへと変化していった。石炭に依存するしかなかった大同の街は静まり返っていた。しかし、近年の原油高騰のため、石炭の需要と価格が上がり始めた。そしてまた大同の街は活気を取り戻した。





経済発展を続ける中国。最近になり政府は小規模炭鉱の閉鎖を進めてきた。理由は環境破壊問題と炭坑事故防止である。実際、国営でない私営の小規模炭鉱では、安全な設備や、保険、補償制度も完備されていないのが現状である。危険を伴う面、若干賃金が高いため地方からの出稼ぎ労働者が働いている。地元の人々は絶対に小規模炭鉱では働かない。閉鎖された小規模炭鉱でも、夜中に石炭を採掘している業者もいるという。景気のいい証拠でもある。写真は地元の人々、出稼ぎ労働者やその家族たち、石炭に依存するさまざまな大同の人々の日常の断片である。



村田次郎 (むらた・じろう)

滋賀県生まれ。日本映画学校映像科卒。04年コニカミノルタフォト・プレミオ「壁のある日常—占領下パレスチナ—」、07年上野彦馬賞入選「アルコール薬物依存症とその傷跡—ウラジオストク—」他。中東、アジアなどの社会問題取材。現在は中国を中心に取材をしている。

新春座談会 2

中国北方ペイファンに時代の風が吹く

戦時中の満洲として以外はあまり知られていない北京以北の地はどのような場所なのだろうか。いま注目を集めつつある「ペイファン」を身体感覚から生活思想のレベルまで縦横に討議する。

『中国東北事始め』

——このたび刊行されました亞洲奈さんの新著『中国東北事始め』をご紹介します。だけでもいいですか。

亞洲奈 これは満洲の今についてスポットを当てたものです。日本人が満洲というノスタルジーを感じると思います。実際そういう街並みがあちらには残っているのですが、当り前ですけど今でもそこには生きた人たちが現在進行形で息づいているわけなのです。そこで決して遠い昔のノスタルジーにとどまらない、その気になれば旅行者でも手に届くような現在進行形の風物たちを取り扱ってみました。名物である焼き餃子とかアカシヤだとか、蜂蜜とか、レトロな街並みには豊かな風物が息づいています。決してこの地は自分が先入観で持っていたような茫漠とした荒野ではなかった。そんな

驚きもこめて私はこの地を「豊饒の地平」と呼びたいですね。しかも大連にいたっては日本から飛行機でわずか2時間の距離であり、新しく日帰りビジネス圏に組み込まれつつある地なのです。ですからその地をもっと身近に感じてほしいと思います。この『中国東北事始め』を編んでみました。

唐 内モンゴルもけっこう書かれていますね。面白そうです。

亞洲奈 ありがとうございます。孫さんに東北地方についていろいろかがいたいんですけど、ご出身でいらつしやるといふことなので。

唐 孫さんはどこでしたっけ。

孫 チチハルです。

亞洲奈 どんな場所ですか。

孫 どんな場所かといわれても(笑) 孫さんは顔を見ればチチハルの、おそらく昔遊牧民民族じゃないかと思

唐 孫さんは一年間住んでましたね。

麻生 僕はハルピンです。1987年に旅館で一年間働いていたんです。当然不法就労で、身分証も偽造して。

唐 逮捕されなかった!

麻生 ええ。でも僕はハルピンという街には苦い思い出もあって、当時中国語でいうと盲流(マンリユウ)に位置付けられていたんです。民工(ミンコン)です。出稼ぎです。夜、街に出て、当時ハルピンでいうと、少年文化宮とか、ディスコみたいなところがあるんです。まだ20歳です。女性との二人連れなんか来ると声をかけようとするんですけど、どこなく蔑んだ目で見られるんです。ハルピン市民から見ると農村からの出稼ぎなどというのとはつまたらぬ奴とか、そんな視線を感じました。そういう経験とは別に言いますと、東北といった場合、必ずしも少数民族だけではなくて、山東省とか華北地方から来た人も多い。中国では大体北

参加者

唐 亜明
孫 秀萍
麻生 晴一郎
亞洲奈 みづほ
(司会) 池田 康

と南を分けますよね。北方(ペイファン)と南方(ナンファン)と。その場合のペイファンというのが非常に濃い土地だというイメージがありますね。僕の東北のイメージとしては……こういうことがあったんです。最近の話なんですけど、ハルピン駅で財布を忘れて、30分後戻った。安がいい街ではなくて、スリに遭つたりとかする。お金を隠していると、盗られる。ところが目の前になると誰もとらな。あくまで偶然の話なんですけど、ほかにも商談なんかするときに、一円でもまかせようと交渉するよりも、この金で全部やってくれと言ったら案外全部使わなかったり、心意気みたいなもので動いていく街だと感じます。孫さんなんかまさにその代表みたいな人なのかもしれないですね。東北というか、北京を含めて北方一帯にはすごくそれを感じるんです。南が全部そうじゃないというわけではないんですけど。よく南の人は金に汚いとか言いますが、南でも福建省とかはだいぶ違う。

亞洲奈 経済の面から言っても北方のほ

うに新しい経済発展のフロンティアが移りつつあるというイメージがあります。現代史を遡ると、鄧小平時代に脚光を浴びたのは南部でした。台湾や香港の資本を利用しながら深圳・広東が発展の一大中心地となりましたが、それから20年、江沢民の時代には中心は上海に移りまして、そして今現在胡錦濤時代に新しい戦略が打ち出されているということで、スローガンは東北の旧工業地帯を経済発展の新戦略とせよと言われているらしいんです。

麻生 「東北プロジェクト」のことですか。

亞洲奈 そうですね。東北振興策というのがありまして、もともと東北地方というと、GDPは全国の11%で、経済成長率は遼寧省全体だと8.8%、とくに成長著しい大連市にいたっては全国平均を上回る12%になっているということです。潜在力は決して小さいものではないんです。かつて重厚長大産業で発展した経験を持っていまして、豊かな地下資源にも恵まれています。造船業は全国の3分の1、自動車産業は全国の4分の1のシェアを占めているということです。2004年に国務院が東北振興のために特別事務局を設置して投資総額9150億円にのぼる百の新規事業を認可したということでした。これを外資を導入しながら進めていくそうなんですけど、かつて東北の三つの宝といえば、高麗ニンジンとミンクと鹿の角だったんで



唐亜明



麻生晴一郎



孫秀萍



亞洲奈みづほ

すが、現代はその三つの宝が自動車と石油化学と漢方バイオ医学に取って代わられようとしているとのことです。私は東北地方は新しい経済発展のフロンティアとして注目しています。

唐 東北地方と言えば、私の両親は南のほうの出身だけでも、革命後北京に移って、私は北京生まれで北京で育ったんです。文化大革命のときに16歳、それこそ下放というものがあって、16歳で中ソ国境に下放されたんです。黒竜江省のミツザンというところなんです。そのときチチハルの青年も沢山いました。けっこう孫さんに似てるんです。あきらかに南の人と人種的に違うんじゃないかと思えます。今はもうみな漢民族になっているかもしれないけれど。そこで2年間下放されて、東北地方のことは青春時代をそこで過ごして見てきたんです。当時は、たとえば私が下放されたとき、1969年ですが、給料は32元もらいました。当時北京の工場の見習い工は16元だったんです。その倍ぐらいの給料をもらって農作業をしていた。とても豊かな、色が黒い土地で、農業としてはソビエト式の農場だったんです。コンバイン、トラクター、全部あって、内地はほとんど機械化されていなかった時代に全部機械化されて農業をやっていました。農業としてすごい豊かです。工業も当時重工業が東北地方にたくさんあったんです。私たちはそのためと戦争するかもしれない。そういうた

めに重工業はほとんど内地に、四川省とか重慶とかに移ったんです。私の兄はハルビンに中国最大の軍事工程学院というものがあった、ソ連の援助で作った中国の最先端の軍事大学だったんですがやはりそのために全部湖南省の長沙に移ったんです。兄は今でも長沙にいます。当時そういうことがあって、改革開放されてから、東北地方は海がなく、もうひとつ、隣のソビエトがロシアになりすごく混乱していて経済が遅れてしまっていたこともあり、一時期は東北地方は非常に治安も悪いし遅れていました。大変な時期を麻生さんは過ごしたと思いますけど、最近はおっしゃったようにものすごく脚光を浴びて、農業はほんとに豊かな土地もあり、機械化されているし、工業はもともと基礎がある、日本の満洲時代、ソビエト時代からずっと蓄積があるから立て直せばいい、だからいま徐々に東北地方も変わっているんです。しかしやはり出口がない。大連は海があるけれども他の地域と比べるとやはり欧米から遠くてやりにくいということもあります。

麻生 東北は場所として非常に面白いところなんです。経済や文化の面でも東北出身の人で活躍している人は多いんです。例えば一人例を挙げると、僕の知り合いですが、田軍（ティエンチュン）という奴がいる。彼は内装デザイナーのトップにいます。国際的にもわりと知られている人です。彼も大慶（ターチン）の生ま

れで、大連ですつとその会社を作っていたんです。今は北京に移りましたが。ファッションとか現代美術とか、そういうところで活躍している人には東北出身の人が多い、ということがあります。

——亜洲奈さんは5年前からこの本を準備していたということですが東北地方に興味を抱いたきっかけはなんでしたか。

亜洲奈 流れが上がってくるだろうなというの、経済発展だけではなくて感じていました。北京オリンピックが開かれると聞いたときに、これで旅行者の波も北のほうに移るなど。最初香港から始めて、次に上海ブームがあって、今度は北京や大連のほうにブームは来るなという実感は現地を訪れながらひしひしと感じていました。それをいつ出すかというのをずっと温めていたんですけど、今年オリンピックがあり北のほうが目されるということもあって、今出したらいいのではないかと思って、発表したということです。

唐 昔は東北地方に旅行する日本人はほとんど年寄りだったんです。若い人はあまり行かない。懐かしさというか、住んでいた家を見に行くとか、年寄りばかりだったんですけど、私も案内したことがあるんですが、やはり若い人は東北地方に行かない。麻生さんは珍しい存在だったと思います。

麻生 そうですね。ハルビンが非常に面白くて、それで結局中国とかかわることになったんです。東北は、旅行という意

味で言うと、冬がいいんですね。日本だと寒いと雪が降っているのが基本なんだけれど、北京から上は全部そうですけど、なかなか雪が降っていない場合があるんです。ハルビンなんかは寒くて、雪はないけど、白い風が舞うんです。そういう時間に、80年代の段階でもものすごくカラフルな防寒具で体を包む。目だけ出していて、ハルビンにいると女性みんな美人に見えるんです。食べ物屋とか羊のしゃぶしゃぶとか、ちょっとした店に入っただけで、ものすごい暖かい感じがする。ドアを開けただけでわっと白い煙が上がって、黄色いランプに照らされていて、入っていくと暖かいです。冬の東北というのは面白いと思います。

孫 中国の東北と言ってもすごく大きくて、私が知っているのは黒竜江省で、いまおっしゃった東北というのは遼寧省なり内モンゴルなり吉林省なりで、東北はすごく範囲が広い。吉林省の人と、遼寧省の人と黒竜江省の人とはみな別々で違うんです。国民性というか、生活習慣まで違うんです。我々黒竜江省の人といえはすごい様々な文化を受けた人間なんです。一言でいうのは難しい。なぜかというところ、うちは象徴的なんです。母は地元の子ハルビンの人、父は北京の近くの河北省出身で、お祖父様と一緒にこちらに移民してきたんです。だからうちの家族が黒竜江省の人間といえるかどうか、私は今も疑問なんです。もともと地元は少数民族「達族」の文化と清の時代の「満

族」の文化が混ざり合った地域です。ここに漢民族が来た。あとで日本も来た。ロシアも来た。だから東北人、特にハルビン、チチハルあたりは本当に文化の混ざり合った人々で、一言でいうのが難しい民族なんです。けれども基本的に地域の環境に養われる性格とか生活習慣があります。東北は寒いから東北人はあまり動きたくない、積極性がない、また、わがままです。一番象徴的なことで言えば、

改革開放の初めのころ、東北人は小銭には全然こだわらない。こだわる人は恥ずかしいと思って、だから靴を直すとか小さなものを売ったりするとか、そういう仕事をする人はめったにいません。ゼロと言ったほうがいいんです。全部南の人が来て街で靴を直したりしています。彼らはすごい大儲けして帰るんです。東北の街で流れもののようにものを売ったりするのは全部南の人で、東北の人は家で座って食べるだけです。こういう性格。あと、豪快で、小さいことにこだわらない。季節はやはり冬が本当に気持ちがいいです。空気がきれいです。寒いのも楽しさがあるって、冬は全部氷の上で遊んでいますね。

唐 やはりこれから日本と一番可能性のある地域は東北地域じゃないかと思えます。地理的にも近いし歴史的にも戦争とかいろいろあったんですけど、親密。亜洲奈さんがおっしゃったように、可能性が非常に大きくなって、中国のなかでだんだん重要性が出てきている。あと、資源

があるんです。木材、石炭、石油。これからはやはり資源のあるところが豊かになる。東北地方はこれからすごい可能性があるとあります。

孫 うちの近く、チチハルあたりは中国一大きな重機械工場があって、軍事産業がすごく発達しています。唐さんが32元の給料をもらったのは、政府の特別補助があるから北京より高いんです。辺鄙な地域でみなに働かせるために、給料を高くも上げる。厳しい環境の中でも豊かに暮らせるためにそうなったけど、改革開放によってその補助金がなくなっただ

亜洲奈みづほさんの新著『中国東北事始め』を抽籤で5名の読者の皆様にプレゼントいたします。ご希望の方は葉書、メールなどでご応募ください。締切は2月15日です。



『中国東北事始め』
～ゆたかな大地のキーワード～
亜洲奈みづほ 著
凱風社
1800円＋税

す。だから経済が駄目になって、「下崗」、つまり仕事を待つ人たちがたくさん出てきた。でも現在はとくに軍事産業がすごい活気づいている。それが中国の軍事費の増加につながっているんです。私も帰るたびに経済がよくなっていることを実感します。でも駄目なとき、改革開放の最初の十年間は本当に大変でした。

日本と中国、過去と現在

麻生 この本は旅行用の本ですか。

亞洲奈 そうですね、旅行者の人が手に届く満洲です。

孫 亞洲奈さんが見た東北のイメージが知りたいんですが。

亞洲奈 私の祖父が実は日本から満洲に赴任しまして私の父があちらの地で生れたという事情があります。ですから自分の遺伝子の中には一部中国東北地方がインプットされているのではないかと感じます。ですからこの地を旅行してやはり郷愁を感じるのですけれど、それを表に出してはいけないうのですね。必死で抑えながら満洲の地を巡ったというのが本音です。こうした郷愁というのは植民地イコール悪という構図のもとに掻き消されてしまうのです。いくら必死に父の第二の故郷はこの地だからとうたっ



孫 東北人の印象はどうですか。

亞洲奈 やはり人が大きいということは感じました。

孫 あと、東北大地の夕日、すごく美しい。

亞洲奈 そうですね。夕日のイメージは非常に強いです。

麻生 僕はハルビンに

いたんだけどほとんど見たことないですね。「松花江」に行けばいいじゃないですか。

麻生 そんなところへ行く余裕はなかった、忙しくて。

唐 私は下放したときにやはり夕日はすごい印象に残っているんです。黒い地平線に、当時けっこう狼が多かったので、狼が走っていて、白樺が立っている、そんな夕日の風景が印象にあります。

麻生 白樺はありますよね。

唐 さっき亞洲奈さんが、自分の思いを抑えるとおっしゃったけど、そういう必要はないと思う。中国の人もそれはすぐわかるし、かつてそういうことがあったけど、東北地方にいた日本人がかならずしもみんな悪い人でもないというのは、これはたまたま中国のインターネットに出た文章で、NHKの語学教材のコラムで紹介しながら書きましたが、ようするに東北地方にいた日本人が解放軍に入ってずっと親切にしてくれたという思い出を書いたものをインターネットに載せたら意見が殺到して、いいという声となぜ日本人のいいことを書くのかという声があった。日本の貧しい人たちが中国に新しい天地を作ろうとして行って、戦争が終わったらまた残って解放軍に入ったということが自分の思い出にあって、また会いたいというような話だけれども、東北地方にいろんな形で日本人がいたんですよ。満鉄、満映、あるいは開

拓団。中国のとくに若い世代の人には、おじいさんがかつてここにいたということについて、むしろ話したほうがいいと思いますよ。

亞洲奈 そう言われると弱ってしまいます。日本人としてあのとき悪かったという糾弾の声を聞けば聞くほど、でもあのときはと反論の声を挙げたくなってしまふのですけれど。逆に満洲の地で私の心を動かしたのは、むしろ当時のことを暖かく見つめる声でした。ここに日本人の村のなになががあったのだよとか、この建物は日本人が建てたのだよというふうに言われるとかえって胸が痛くなり、胸を揺さぶられて、申し訳ない、かたじけないと思ってしまうんです。

唐 東北の人はずごくおらかで、あまりこだわらない。もちろんすごい目にあつた人もいろいろいるでしょうけど、許さないといい若い人は少ないと思います。それを前提にして交流していけば全然隠したり抑える必要はないでしょう。

麻生 2005年ぐらいから、反日デモとかあつたときぐらいから、河北省を中心に戦争の被害者に会うことを続けているんです。そうすると90歳ぐらいの人がメインになるんですけど、そういう人はいろんな攻撃の生き残りなんです。たとえば毒ガス攻撃だとか犬に食わせるとか、いろんなことがあるわけで、そういう被害者に会うと非常によくわかつてくるのは、彼らの言うことがものすごく具体的な話なんです。どうということかとい

うと、日本人がどうだと言いたい方をする場合もあるんだけど、それよりもむしろ、何々さんがどうだったとか、何々部隊がどうだったとか、そのあとの周恩来とかの教育の影響もあるんでしょうけど、日本人はどうだという発想を被害者自体からそんなに感じないんです。むしろ最近の反日は別の要因で強くなったようなところがあって、僕がハルビンに行ったときも、ハルビンの旅館の主人のお父さんがやはり戦争でいろいろあったんです。彼にしても、日本人はどうだと言いたい方はあまりしない。もっと具体的で、皮膚感覚とでも言うべきものなんです。



辛さとか、全然知らないんです。でもそのことが、今の反日デモにかえってつなば南京大虐殺事件というようなすごい残酷なことしか頭に入らないことによつて今の若者はたとえば南京大虐殺事件というようなすごい残酷なことしか頭に入らないことによつて今の若者はたとえ

日本の悪口を書かせないんです。

麻生 書けないんですか。

孫 書けないんです。だからここが私はすごい問題だと思っんです。

麻生 問題は問題ですね、それは。

孫 だから中国の東北大地で、とくに女性一人では日本人だと言つて旅行をしないほうがいいと思います。たしかに東北人は心がおおらかで、孤児たちや女性たちを引きとつて育てる、それは本当にその心があるけれども、恐いのは今の何も知らない一部の若者、つまり日本の右翼に相当する人たちです。

麻生 反日デモのときに思ったのは、被害者がほとんど介在しなかった、ということがあったんですね。被害者は全然表に出なかった。彼らの話を聞いてわかったのは、戦争の被害者つて中国ではすごい大変な人たちで、彼らは生きのびたという事で日本のスパイだったんじゃないかと疑われるんですね。文化大革命のときとか。だから戦争の体験は語れないんです。だんだん50年代後半くらいから話しづらい雰囲気になってくるんですね。なにかそういうものがなおざりにされたまま中国政府は日本と条約を作ったみたいなのがあるんですよ。そういうものがくすぶっている中で、やはり反日といった場合、日本の現在の問題つてあるんです。単純に戦争がどうだったかという客観的な……今かりに実際その戦争がどれだけのもの侵略がどれだけのものだったかという客観的事実があった

として、それを中国の人たちに面と向かつて「そんなものはなかったですよ」と言うのは、中国をなめているとか、自分を軽んじているんじゃないかと、か、そういうものとも結びついてくるわけですね。さきほど唐さんが、80年代に日本に留学する人は多かったですけどだんだんそういう志向は減ってきているという、あるいは日本に留学してもなかなか浮かばれないとか、いろんなことがあるじゃないですか。外国から労働者をどんどん雇おうとか、そんな話が出てきても、実際に中国の留学生は日本に沢山いるのに、そういう人を率先して使おうと果たしてしたのかとか、いろんなものが混じつて反日として出てきている。たしかに戦争という意味で具体的な知識が欠如している若者はもちろんいるんだけど、やはり日本の今とか、そういうものが結びついてきてきているんで、戦争がどうだったかという事はまたちょっと違う問題なのかと僕は思っんです。

孫 その問題は、私はかえって問題視するところなんです。中国の国民感情を見るとなんで今のような状況になるのか。好条約ができて、急に日本の悪口を一切言つてはいけないという段階になったんです。そこで日本に対する中国人の記憶を絶たされたんです。我々の世代をふくさとか、植民地の話とか、満洲のとき

からという気持ちによって出てきた表現かもしれないんですけど、中国人から見るとそうじゃないんです。認めたくないとか、侵略は正しいとか、そういう印象を与えると、反発する。でも今の中国政府はまた70年代と同じようなことをやろうとしているんです。安部さんになってから訪中によつてすごい関係がよくなってきたんですね。福田総理になると、なおさらよくなる。中国は今、本当ですよ、

孫 この歴史問題があるから日中関係つて本当に難しいと思っのですが。2005年の世論調査によると、日本人で中国に親しみを感じると答えたのはわずか3割だったんですね。とくに20代から40代までは7割以上が中国に親しみを感じないと答えているそうなんです。せつかく2007年に日中観光交流年というものがあつたり、また2002年の日中国交正常化30周年を記念したときには日中国民交流年というものがあつた

のに、大規模なイベントが開かれているわりに、なんかまだまだお互いの顔が見えてこない。そんな中であなた方の素顔を見たいというのが私の気持ちです。日本の10倍というあまりの人数になかなかその個人の顔が見えなくて、不安を抱くこともあるんですけど、一番恐ろしいのは、中国脅威論に煽られた疑心暗鬼だと、そこから生まれる負の悪循環だと思えます。なぜ隔てられてしまうのだろうと思います。たしかに一時期、文化大革命など共産主義のあまりの強さに中国人それぞれの個性が抹消されて、共産主義の仮面の下に素顔がよく見えなかったという時代がありましたけれど、改革開放の窓が開き始めると、その向うに広がる世界があるのです。かたや社会主義の道徳を保ちながらも、一方で世界のスタンダードを葛藤しながら受け入れつつある姿は、明治維新の我々にも通じるものがあるのではないかと思いますけれど。こうした視点からお互いに親近感を抱くという方法もあるのではないかと思います。またひとつ期待しているのは、芸能のパワーですね。中国といえば Made in China の商品ばかり思いつくかもしれませんが、少しづつ映画などの芸能コンテンツを通じて中国の人というものが見えてきつつあるのです。そういう意味では現在韓国の「韓流」につづいて起きている「華流」に望みをかけています。

孫 ついこの前、朝日新聞の記者が「留

日組の悩み」というタイトルで書いていましたが、中国の日本留学経験者を取材したら、最初すごく日本のことをよく言っていて、自分は日中友好のために努力し、役割を果たしたいと言っていたのに、いったん文章にすると、ごめんなさい、これは絶対に書かないで下さい、となると。つまり、留日の人たちは中国国内でもまだ堂々とられない状態が存在するというのがその記者の指摘なんです。こういうことから見ても、中国の中で日本に対するイメージはまだまだ難しい段階だと私は思います。

マクロよりミクロの現実を見る

亜洲奈 社会主義市場経済といわれているじゃないですか。市場経済とは言っても社会主義というのはやはりどこかに残っているのかなと感じたことがあります。上海で知り合った女性が話してくれて、川の堤防が崩れてしまいそうになつたときに、人民解放軍の兵士が自分の身をなげうち、そこに身を置いて、自分は命を落としたしながら、人民の安全を守ったという話がありました。その洪水があったところに、中央テレビ局が寄付金を集めたところ、90億円集まったということで、こういう話からもやっぱり助けあいや犠牲的精神の社会主義というのはどこかに残っている、「私は社会主義を信じている」とその女性は言っていました。なに

よりそれを感じたのは、その女性が身を投げた兵士の話をしながら涙をぼろぼろとこぼし始めたことでした。そういう話に感動できるという純粋さを持つているといのが、まだすたれない精神をあらわしているのかなと感じました。

麻生 さっきの、天安門とか言論の自由がどうなったかという、そういう話も含めていうと、去年今年というのは非常に逮捕者が多い年で、言論の自由とか、あと農民で訴えてつかまったとか、そういうのが山ほどいるんです。今の共産党と民間の関係は、昔のような感じではないんですね。昔はとにかく自由は駄目だと、抑えつけるような感じでやってきた。今はたとえば人権弁護士だとか、非常に新しい言論をやっている人とか、そういう人が捕まることがあるんだけど、それというの、ある意味では80年代に比べると中国が非常に自由になったんだと。自由になった結果、急進的な人たちというのが出てきているわけですね。そういう人たちが捕まってくる。中国がはたして自由なのか不自由なのかという問いかけの段階ではないんですね。今はむしろ非常に自由になってきているんじゃないかと。むしろすごく自由になっていることを中国共産党がおそれているという構図に変わってきたんですね。なにが言いたいかというと、中国はどうだと言った場合に、中国共産党というものがどこまで中国を代表できるのか。たしかに完全に中国共産党を脱し切った中国というものは

は想像できないんだけど、ただ現実問題としては、たとえば日本で中国はどうだという言い方をする時に、中国共産党の世界と、中国というものが非常に未分化、わかれているまま語られていくことがあるのではないかと。これは日中友好とか交流とかいうところでも関係してくるわけ、中国が好きだといった場合に、中国のなにか好きなのかというふうなものがないとだめだと、日中の付き合い方に関してはどう思います。たとえば中国が好きという場合、中国人の中で非常に民主化のために戦っている人もいればそれを抑えつける人もいるわけですね。その両方とも好きになるというのはどうということなのか。僕は非常におかしい話だと思ふ。個人を見ない、マクロな発想になつていくんですね。やっぱり、どっちかの価値に負担すべきなんだ。中国とかかわるといふより、あるなにかとかかわっていく。そのあるなにかとかかわっていくという価値ですね。そういうものがど

んどん交流として深まっていっていい。中国と中国共産党が一体化して曖昧模倣となった、そういう中国というものを語る場合、対象が不明確になる。具体的に顔が見えないし、そこに価値もないんです。中国がどうなつても好き、みたいな。その中にAもあれば対立するBもある。全然相反するものがあるって、どっちもどうでもいいみたいになつていくわけですね。外交なんかにしてもそうで、日本に留学して浮かばれないことの一つは、た

たとえば政治的な亡命はいつさいないんです、日本の場合。人権とかでやられている人がいて、それを日本政府が助けるわけでもない。環境問題で地方政府の中で戦っている個人のNPOとかがあったときに、そういうNPOに加担してあげるとか、そういう交流が足りないのではないかと。そんなふうに思います。

亞洲奈

日中関係ということから言う

と、今、曖昧模糊という話が出ましたけれども、そうした曖昧模糊としたものがあるからこそ中国は恐いというように感じる人がまだまだ多いように感じます。

中国脅威論というのがありますけれど、私は、アジア派である我々の使命は、中国脅威論に対抗することだと考えています。中国の台頭に対して警鐘を鳴らす人は腐るほどいるのです。しかし現実

に中国は輝かしい発展を遂げているわけです、中国脅威論というのはいわば成功者へのやっかみのようなものだと思うのです。そういった嫉妬はやめようではないか。それまでアジアで日本が一人勝ちしていたところ、これからは日中という二大強国の時代が訪れようとしていますけれど。すでに中国が日本を追い抜いたという例は数限りなくあります。たとえば中国が世界最大の半導体市場になったのが2005年で、日米を抜きました。また自動車市場では日本を抜いて世界2位になったのが2006年のことでしたけれども、生産国としては世界3位まで上がりまして、その台数は850万台。さ

らに造船に至っては日本を抜いて世界2位、年間40%の成長率を誇っているということがあります。こうした現実から目をそむけてはいけないと思うのです。たとえ痛みを伴うものであったとしても、むしろともにアジアを牽引するパートナーが登場したというふうに歓迎すべきところではないかと考えております。少なくとも我々アジア派はこうした中国の現実をきちんと一般社会に伝える使命を持っているのではないかと自分では自覚しております。

孫

中国でいま思うのは、例えば、民主

化は絶対だめで、なせかというところ、豊かにならない以上、民主化はまだだめです。各国の例を挙げると、皆同じですね。欧米だって日本だって。日本は特別で、押しつけられた民主化だけど、他国の例から見ても、経済が成功した後には、民主化になる。中国では共産党一党統治をまだ長く続けるだろうと思います。同時に経済はさまざまいい成果を遂げて、日本を超え、あるいはアメリカを超えたと

き、世界にどんな影響を与える国になっているか、ということも思います。

麻生

古典なんかを見ればわかるんですけど、とにかく一番重要な前提条件というのがあるとしたら、人権や自由より安定なんです。東アジアというのはそういうところがあると思う。とくに中国はそうだと思います。安定ということを考えて、どうしても発想がマクロになると、法輪功とかいろいろあるじゃない

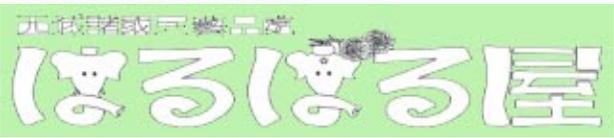
ですか。そういう一部の人たちの権利を守るというよりも、混乱をいかにさせない中で、安定的に発展させていくか、そういう発想になるのが東アジアとしては普通なのかな。でも、アメリカとか、ヨーロッパとか、中国の人権問題をすごく叩くわけじゃないですか。彼らは別に中国共産党の打倒を目指しているとは限らないわけで、いずれにしろそういう監視の目というのが育たないんですよ、中国共産党と中国とをわけて考えないと。なにか僕が言うと、あなたは中国の敵なのかとか、そういう風にされがちじゃないですか。味方が敵かというふうに。そうならないような日中関係の言論があつてほ

しい。僕はなにか書くときよく中国の人に怒られるんですよ。なんであなたは中国の悪口を書くのかと。僕は中国の悪口を書いているわけではないんです。たとえば環境が悪いという問題があった場合、それに立ち向かっている人もまた中国人だから、中国を悪く言っているわけじゃないんです。中国共産党がずっと政権を担っていくことだって十分あるわけです。僕が言いたいのは、そういうことではなくて、相対化して見なければいけない、中国共産党に対しても。そういうことを言っているわけです。

(2007年12月22日、

東京・高田馬場にて)

インド・ネパール・アフガニスタン・バリなどなどからはるばるやってきた衣料品・織物・アクセサリ・楽器・CD・DVD、、、が皆様をお待ちしております



<http://www.harubaruya.com/>

180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-8-3 コスモビル 2階

Phone & Fax. 0422-21-4790

渋谷アマリタ Phone & Fax. 03-3461-6563

吉祥寺別館 Phone & Fax 0422-22-2433

☆はるばる屋通信☆

冬物衣料品バーゲンやってまーす！！

30-70%OFF お買い得がたくさん！

吉祥寺別館は、木曜日が休みです

☆ インド製レトルトカレー入荷しました ☆

★ 春物もポチポチ入荷が始まりました ★

インド舞踊・ベリーダンスの公演・発表会にCD・DVDなどを持って出張販売いたします。

ネットでのお買物もお楽しみください！